

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ドダイ		
○保護者評価実施期間	R8年 5月 25日		～ R8年 6月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	R8年 5月 25日		～ R8年 6月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 5月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。	保育士と社会福祉士の有資格者が、おめめどうの研修を受けてツールを使い支援している。	研修をかさね、利用者個人をより理解しながら支援に当たれるように、支援者間で対応の仕方を話し合いを密に行っていく。
2	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている。	送迎やお迎え時に、お子様の話や世間話、悩みなどを聞いて共有したり、連絡帳やLINEにて写真付きで様子をお伝えしています。	よりドダイでの様子をお伝え出来るように、連絡帳での様子を詳しく入力したり、端的に伝えられるように努めます。
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている。 また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	子どもにわかりやすく各部屋の役割を目で見えるように提示している。 階段はあるがバリアフリー化されていて、移動は楽に出来るようになっている。各部屋に支援者が居るようにしたり、1階2階でも連絡が取れるように声を出したり電話の内線でも連絡できるようになっている。	子どもたちが慣れてきて各部屋を行ったり来たりして走ってしまうことがあるので、ドアを開けていても分かるように写真掲示の場所や支援者がわかりやすく伝えるように変更しながら様子を見る。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がない。	課外活動として、公共施設や公園等で一緒になることはあっても、「交流しましょう」と機会を設けることは、特性もあり、なかなか出来ていない。	今後は地域の学校や児童クラブ、地域の活動で参加出来るようなものは積極的に参加しながら特性を知ってもらい触れ合いながら、地域移行支援が出来るようにしていきたい。
2	父母の会の活動の支援はない。 きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていない。	保護者の方の就労により、なかなか時間が合わず保護者交流会の参加が少ない。 父母の会という名のものはない。 きょうだい児の交流の機会は上記と同じ理由で開催できていない。	(土)(日)祝祭日が閉所なので、就労している保護者の方を集めることは難しいが、休みの日等に開催して集まるのかをアンケートを取ってみようと思う。
3	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明しているが、玄関に置いてあるためなかなか目にする事が少ない。	マニュアルが玄関に置いてあるためなかなか目にする事が少ない。 送迎しているご家庭が多く、お迎えに来られる保護者は数少ないので、周知が子えっけだけになってしまっている。	保護者に向けて、各マニュアルをPDFでLINEにて配信することを検討している。